

雄勝稲作情報

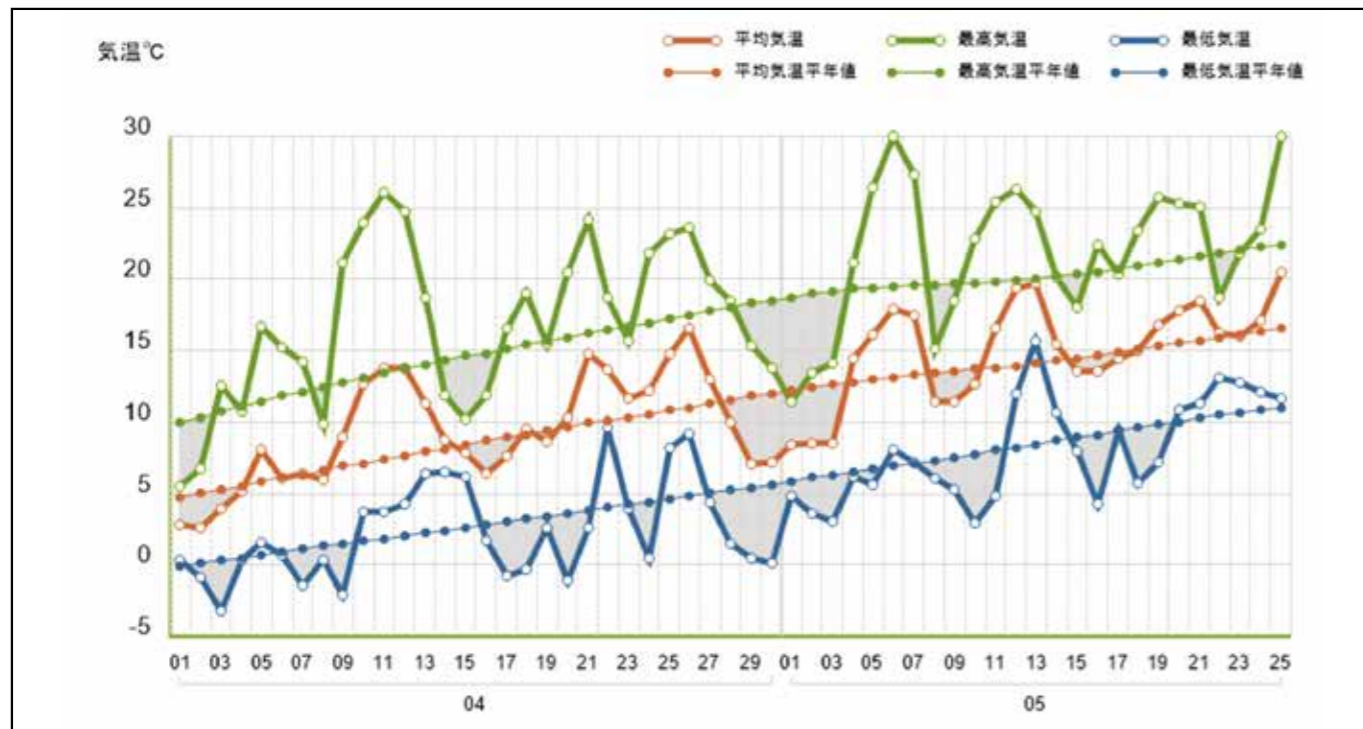
No.4 令和4年6月3日



発行 ● 駒形農業協同組合
 湯沢市農業総合指導センター
 秋田県農業共済組合
 雄勝地域振興局農林部農業振興普及課
 雄勝地方病害虫防除員協議会

これまでの気象経過

(4月1日～5月25日：アメダス湯沢)



雄勝管内の播種盛期は4月17日(平年より3日早い)でした。4月下旬から5月上旬にかけて、一時低温となりましたが、期間を通して日照時間は平年より多く推移したことから、ハウス内の温度が高まり、苗の生育は概ね順調でした。

田植え作業は、5月16日頃から始まり、盛期は5月23日(平年より2日早い)でした。気温は平年並でしたが、降雨日が少なく、日照時間が多いため、地温が高まり、活着は順調でした。

東北地方予報【向こう1ヶ月の天候見通し】

(令和4年5月26日発表)

【平均気温】 平年並か高い見込みです。
 【降水量】 ほぼ平年並の見込みです。
 【日照時間】 ほぼ平年並の見込みです。

(低20%・並40%・高40%)
 (低30%・並30%・高40%)
 (低40%・並30%・高30%)

余り苗は直ちに泥の中に完全に埋めて処分して下さい!

注意!

例年、いもち病が多発しているほ場が散見されます。補植用の苗を放置しておくと、いもち病の発生源になります。いもち病の発生は周辺ほ場へも大きな影響がありますので、早期発見・早期防除に努めてください。



葉いもちの予防対策を徹底しましょう!

●サンブラス粒剤やオリゼメート粒剤の散布は感染前に!

葉いもちは例年6月20日～25日頃には感染、7月1日頃から病斑が見え始めます。サンブラス粒剤(3kg/10a)やオリゼメート粒剤(2kg/10a)は防除効果を発現するまでに、散布後約7日を要しますので、**6月15日頃までに散布します。**

田植え前や移植時の箱施用剤(いもち剤入り)や、移植時のペースト混和剤(いもち剤入り)を使用していない場合には、確実に散布しましょう。

また、散布時は湛水状態で田面に均一に散布して下さい。

6月15日頃まで

サンブラスやオリゼメート散布時期

(1週間後→)

稲に吸収されるまでの期間

6月20日～25日頃

いもち病感染時期

(1週間後～10日後→)

感染から発病までの期間

7月1日前後

いもち病斑が見え始める時期

【葉いもち用水面施用剤を散布する際の注意点】

- ・湛水状態で田面に均一に散布し、散布後4～5日間はかん水を行わない。
- ・周辺環境に配慮し、散布後7日間は落水やかけ流しをしない。

●いもち病を見つけたら!

ブラシン剤、ノンブラス剤、トライ剤(予防剤と治療剤の混合剤)の茎葉散布を実施し、その後、必要に応じてビーム剤を追加散布します。

※フサライド剤(ラブサイド、ブラシン)、トリシクラゾール剤(ビーム、ノンブラス)の本田での総使用回数はそれぞれ3回以内、テブフロキン剤(トライ)は2回以内なので注意してください。

なお、育苗段階の使用もカウントされます。

薬 剤 名	剤 型		
	粉 剤 D L 3～4kg/10a	ゾル 1,000倍 100～150L/10a	フロアブル 1,000倍 100～150L/10a
ノ ン ブ ラ ス	○		○
ブ ラ シ ン	○		○
ビ ー ム	○	○	
ト ラ イ ^{※1}			○

※1 トライは60～150Lで1,000倍

《いもち病ズリコミ圃場の様子》



今後の管理について

目標茎数を確保しましょう！

雄勝地域の「あきたこまち」目標茎数

6月25日～30日頃 8～9葉期（有効茎決定期）

目標茎数420本/m²確保（株当たり茎数の目安） ●60株/坪…23本/株 ●70株/坪…21本/株

※生育が遅れている場合は目標茎数まで分けつ促進を図ります。

※有効茎決定期は、天候により時期が前後する場合があります。

中干し（または深水管理）による分けつ制御

目標茎数を確保したら中干しまたは深水管理で無効茎の発生を抑制します（6月下旬）。

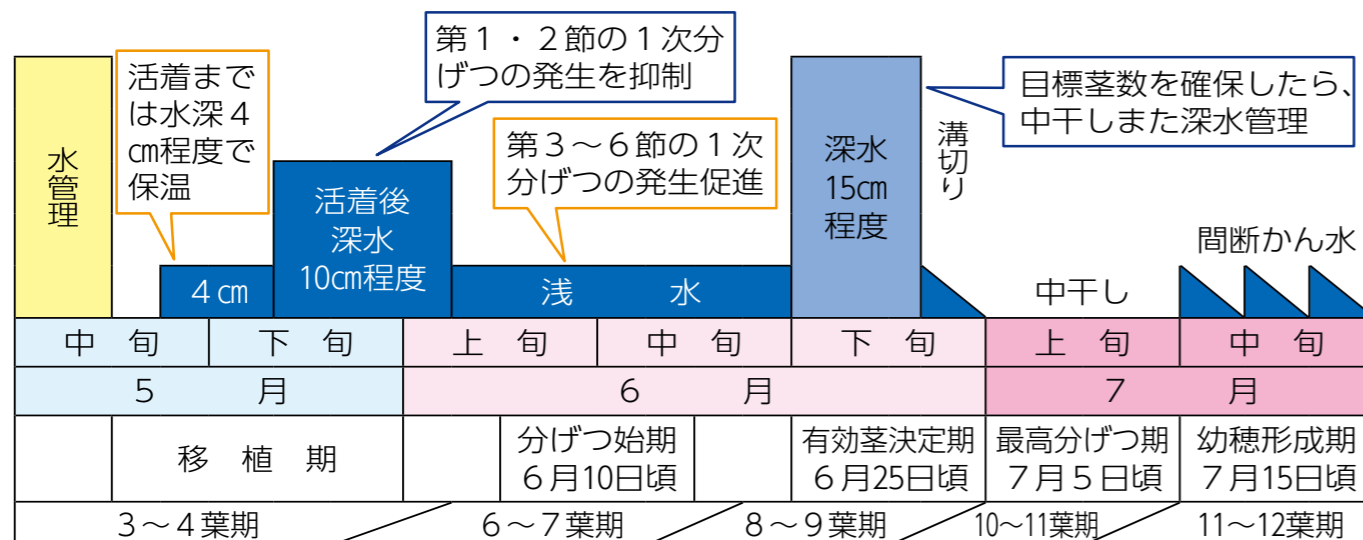
中干し期間は7～10日位とし、田面に亀裂が1～2cm入り足跡がつく程度です。

中干し終了後は間断かん水とし、土壌を酸化的な条件に保ち根の伸長を促進するようにしましょう。

溝切りの適切な実施について

田面の均平が悪く落水しにくい場合や排水不良田は、溝切りを行きましょう。溝切りを行うと水の回りが早くなるため、より確実な水管理を行うことができます。

また、排水も素早く行うことができ、中干しの効果が高まります。登熟後半まで水を張ることができるため、根の活力が維持され、登熟歩合の向上に繋がります。



微量要素肥料の追肥（調節肥）で異常気象に強い稲を！

水稻はケイ酸や苦土など微量要素を土壌から吸収しています。

微量要素の施用は、米の生産性や品質の向上、異常気象（高温、低温、強風など）に強い稲づくりに繋がります。

微量要素入り肥料（例）

肥料名	種類	施肥量 (kg/10a)	施肥時期	備考
けい酸加里	ケイ酸含有肥料	20kg	6月下旬～7月上旬	①倒伏抵抗性が高まる ⑤食味向上 ②根の活力向上 ⑥病害虫被害の軽減 ③有効茎歩合の向上 ⑦葉身の老化軽減 ④登熟歩合の向上 ⑧ワキの発生抑制
サンメイト		30kg		
K S K 28		1.4kg		
マグホス	リン酸含有肥料	20～40kg	7月上旬	①根の活力向上 ③登熟歩合向上 ②有効茎歩合向上
PK化成40号		20kg		

農薬の使用は安全・適切に！

これからの時期、農薬の使用が多くなります。次の事項に留意しましょう。

安全使用の基本事項

・農薬の使用基準を遵守し、防除履歴を記録しましょう。

農薬使用上の諸注意

・周辺作物に飛散（ドリフト）しないように風の弱い時間帯を選び、十分注意し、周辺ほ場の生産者と農薬散布時期や収穫時期についてよく話し合いましょう。

・農業用マスクや手袋、帽子、長靴、長袖シャツ、上衣、長ズボン、保護クリームなど散布作業に適した保護具を着用しましょう。

・農薬散布後はタンクやホース等、散布器具の洗浄を徹底して行いましょう。

農薬の取り扱い上の注意

・農薬の保管管理には十分注意しましょう。

・農薬を他の容器（清涼飲料水の容器等）へ移し替えてはいけません。

一発除草剤使用後の残草対策

○ヒエやホタルイが残草するとほ場内がアカスジカスミカメの産卵・繁殖場所となります。適期を逃さず、中・後期除草剤で処理しましょう。

残草の種類	除草剤名	使用時期（移植水稻）	使用方法	成分数
ノビエのみ	クリンチャー1キロ粒剤	1kg/10a… 移植後7日～ノビエ4.0葉期まで 1.5kg/10a… 移植後25日～ノビエ5.0葉期まで	湛水散布	1
	ヒエクリーン1キロ粒剤 ワンステージ1キロ粒剤	移植後15日～ノビエ4.0葉期まで	湛水散布	
	トドメMF1キロ粒剤	移植後14日～ノビエ5.0葉期まで	湛水散布	
ノビエ及び ホタルイ、 コナギ、 オモダカ等 の同時発生	レプラス1キロ粒剤 ゲパード1キロ粒剤	移植後14日～ノビエ4.0葉期まで	湛水散布	4
	ヒエクリーンバサグラン粒剤	移植後15日～ノビエ4.0葉期まで	ごく浅く湛水して散布	
	クリンチャーバスME液剤	移植後15日～ノビエ5.0葉期まで 使用量1000ml/10a 散布液量70～100L/10a	落水もしくはごく浅く湛水して散布	
藻類、カナ表層はく離用除草剤		使用時期（移植水稻）	使用方法	成分数
モゲトン粒剤	藻類・表層はく離発生時、収穫45日前まで		湛水散布	1
クリアホープフロアブル	移植直後～ノビエ1葉期まで（移植30日以内）			2

ノビエ除草の使用時期については、上記葉齢期前までの早めの散布で効果が高まります。

※除草剤によって散布時期や散布時の水管理が異なりますので、使用前には

必ずラベルをよく読み適正に使用して下さい。